

施策 9

歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進

<主な取組>

9-① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値や魅力を県内外で広く伝えとともに、認知度向上や受入態勢の充実に取り組みます。

9-② 歴史的資料や文化財等を適切に収集・保護・保存するほか、デジタル技術の活用等による情報発信などの新たな価値の創出に取り組み、地域活性化を推進します。

9-③ 地域の祭りや伝統芸能などについて、鑑賞や体験機会の充実に取り組み、継承を促進します。

9-④ 県民、特にこどもたちがふるさと青森の歴史や自然、文化への理解を深め、郷土に誇りを持つことができる取組を推進します。

<主な事業等>

主な取組	事業等名	R7決算額 (千円)	取組内容・評価（●…事業概要 ▶…具体的内容・実績・評価等）
9-①	「北海道・北東北の縄文遺跡群」保存・活用推進事業	27,003	● 「北海道・北東北の縄文遺跡群」を次の世代に守り伝えていくため、関係道県及び市町と共同で設置する包括的保存管理体制の下、適切な保存と活用を推進するほか、登録直後の関心の高さを活かして、縄文遺跡群の価値や魅力を発信する。 ▶ 縄文遺跡群世界遺産協議会及び縄文遺跡群世界遺産専門家委員会の開催や、H I A 指針改訂作業等を実施した。 ▶ 4 道県や福岡、東京でのフォーラム開催（1,900人参加）や公式ウェブサイトのリニューアル、デジタル御朱印集め企画（1,213人参加）を実施し、縄文遺跡群の価値や魅力を発信した。国内フォーラムでは、福岡県との共催によるパネル展や東京での「宗像・沖ノ島」と「百舌鳥・古市」のVR体験を各府県の協力により実施するなど、縄文遺跡群を含む世界遺産の価値や魅力の理解促進につなげることができた。 ▶ 来訪者動向調査を実施した（日本人向け5,480件、外国人向け169件）。 ▶ まるごとナビなど来訪者向けの各種印刷物を作成した。
9-①	「青森の縄文遺跡群」保存・活用事業	79,150	● 「青森の縄文遺跡群」を適切に保存・活用していくため、県民への価値の伝達と保護意識を高める普及啓発、認知度向上に向けた県外プロモーション、関係市町の受入態勢の充実にに向けた遺跡施設等の整備に対する支援等を行う。 ▶ 4 周年記念催事、出前講座（5 回）、国内外PR（JAL 機内誌「SKYWARD」8月号へのPR記事掲載）等の普及啓発を実施した。周年記念催事では約8,000人が三内丸山遺跡センターを訪れていることから、県民への価値の伝達や認知度向上など普及啓発につながっている。 ▶ あおもり縄文ステーションじょもじょもでは、6 市町村と連携したワークショップ・講演等や、4 者（JR 東青森、青森市、青森商工会議所、県）連携イベントと連動した1 周年記念イベント等を実施した。来場者数を維持するため、日常的な情報発信を積極的に行う必要がある。

施策 9

歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進

主な取組	事業等名	R7決算額 (千円)	取組内容・評価（●…事業概要 ▶…具体的内容・実績・評価等）
9-②	「みんなあつまれ！ 三内丸山遺跡」 保存・活用事業	11,358	● 世界文化遺産である三内丸山遺跡の価値を未来に継承し伝えるため、幅広い世代の地域住民が参画し、保存・活用の意識を高めるとともに、国内・国外観光客への積極的なPRを行い、新規来館者やリピーターの増加を図る。 ▶ 遺跡内の自然素材を活用したムラづくり体験（5回、延べ49人体験、高校生サポーター延べ17人参加） ▶ 遺跡の価値を伝える体験メニューやプログラムの開発・実施。 ▶ 重要文化財3Dデータ等デジタルデータ登録・公開603点 地域住民や高校生などの参加者とともに遺跡内の自然素材を活用して実施したムラづくり体験イベント等を通じ、保存・活用の意識を醸成するとともに来館者へ三内丸山遺跡の価値や魅力を伝えることができたため、継続して遺跡の担い手確保及び価値や魅力の発信に向けて取り組む必要がある。
9-③	記録で紡ぐ！無 形民俗文化財継 承推進事業	29,409	● 無形民俗文化財について、動画撮影等による記録の作成を行い、継承につなげるツールとして、動画による記録作成マニュアルを制作するとともに、将来の担い手育成として幅広く民俗芸能に触れる機会を創出する。 ▶ 「誰でもできる記録作成マニュアル」の制作。（継承方法の拡充） 令和8年度のマニュアル制作に向け、無形民俗文化財のうち芸能に係る4団体をモデル団体として抽出。令和7年度は弘前大学と業務委託契約を締結し、2団体（仲町こどもねぶた、鮫神楽）の記録を作成した。「継承方法の拡充」のための取組を計画どおりに実施できた。 ▶ 「あおり民俗芸能活性化大会」の開催。（県民への情報発信と担い手の確保） 県内4会場で民俗芸能団体による公演を実施し、公演の様子や普段の活動を紹介する番組をテレビやSNS等で発信した（出演民俗芸能団体24団体、公演来場者数約1,800人）。民俗芸能団体の発表機会を確保することができた。また、テレビやSNS等で発信したことによって、民俗芸能に興味・関心が薄い層にも魅力を伝えることができた。担い手を確保していくためには、さらに多くの民俗芸能団体の発表機会とたくさんの方に知ってもらう機会を確保するため、取組を継続する。
9-④	県立郷土館博物 館活動	10,645	● 県民が、ふるさと青森の歴史や自然、文化などについて、幅広い理解を得られるよう、郷土に関する資料の調査研究を行うとともに、講演会、観察会、出前授業等の教育普及活動や展示事業、資料のデジタル化・公開等の取組を行う。 ▶ 教育普及活動として、土曜セミナー（11回、380人参加）、自然観察会（2回、39人参加）、あおり街かど探偵団（2回、28人参加）を実施。参加者の学習を支援し、郷土に関する理解を深めることができた。博物館の仕事普及啓発事業として講演会（1回、11人参加）、出前授業（19校、805人参加）、「夏・冬休みこどものくに」（2回、50人参加）を実施。参加者の学習を支援し、郷土に関する理解を深めることができた。 ▶ 展示事業として、サテライト展「石！？あつめてみました」（観覧者数45,000人）や、県内各地の多様な主体との連携による共催展（8回実施、観覧者数14,159人）を開催。県民が資料に触れる機会を創出することができ、郷土への関心を高めることができた。 ▶ 資料204点をデジタル化し、770点を公開。外部からの希望による資料利用の促進及び県民の学習意欲の向上につながった。

施策 9

歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進

<指標>

No.	指標	基準値 (現状値)	目標値 (R10)	R6	R7	R8	R9	R10
① ②	三内丸山遺跡センター来館者数	(R4) 207,095人	230,000人／年	233,687人	233,461人			
③	無形民俗文化財の民俗芸能に係る保存団体のうち活動中の団体数	(R5) 338団体	353団体	(R5) 338団体 (隔年調査)	(R7) 392団体			
④	県立郷土館ホームページアクセス数	(R5) 26,953件	30,000件／年	32,077件	35,736件			

<今後の方向性>

- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の認知度向上（県内外への情報発信等）、受入態勢の充実、デジタル技術の活用等による新たな価値の創出と地域活性化の推進
- 無形民俗文化財の継承方法の充実と保存団体の活動支援、地域の祭りや伝統芸能等の鑑賞・発表機会の充実による担い手確保（民俗芸能大会等）
- ふるさと青森の自然や歴史、文化への理解促進と魅力発信の推進（収蔵資料のデジタル化等）